

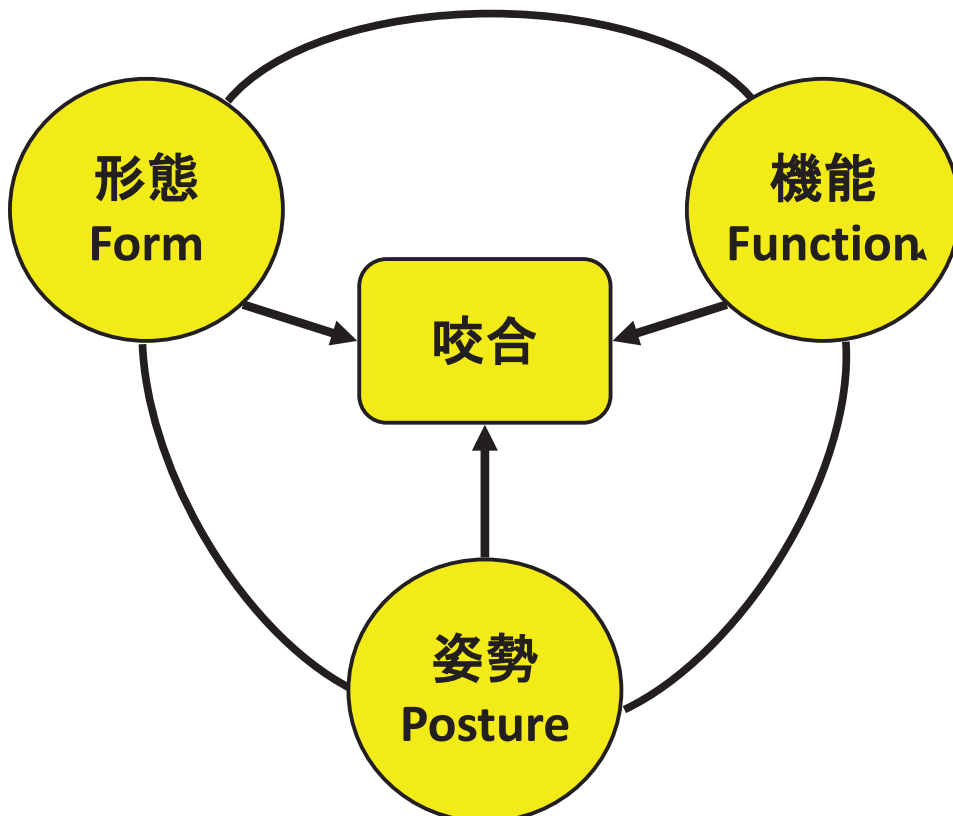
予防矯正 3days

5

形態と機能と姿勢 との相関関係



形態と機能と姿勢



その形には
理由がある！！

形態的な異常
機能的な異常
姿勢的な異常
の相関関係

形態・機能・姿勢 (Form・Function・Posture)

- ・機能は形態をつくる。
- ・姿勢は形態をつくる。
- ・その形態には原因がある。
- ・その原因を突き詰め、中止させること
(誘導・指導・支援・訓練)が優先する。

予防矯正の方程式

HOP: その形態になった機能的な原因/姿勢的な**原因**を探る



STEP: その原因を取り除くための**注意、指導、支援**を行う。



JUMP: その後、**形態の改善**に取り組む。

原因療法の基本

患者の主訴(結果・現状)を見て、いかに治すかを考える前に

なぜそのような結果になったのかを考える。

- ・観察(全身→頭顔面→口腔周辺→口腔内)
- ・姿勢(態癖) & 機能(悪習癖)の究明をする。
- ・原因を特定する。
- ・原因を断つ方策を考える。
- ・指導、訓練、支援等を実施する。

原因除去が予防矯正の第一歩！！

予防矯正 3days

6

不正咬合の 原因 と 結果



A. 遺伝／先天的問題

B. 後天的問題

機能的問題(悪習癖)

- ・口呼吸
- ・舌癖、舌小帯異常
- ・指しゃぶり
- ・片噛み
- ・物噛み／爪噛み
- ・食生活の乱れ

姿勢的問題(態癖)

- ・うつ伏せ寝
- ・頬杖
- ・肘杖
- ・側湾／猫背
- ・ライフスタイルの変容(体力不足、運動不足)

- ・叢生
- ・上顎前突
- ・下顎前突
- ・過蓋咬合
- ・開咬
- ・交叉咬合

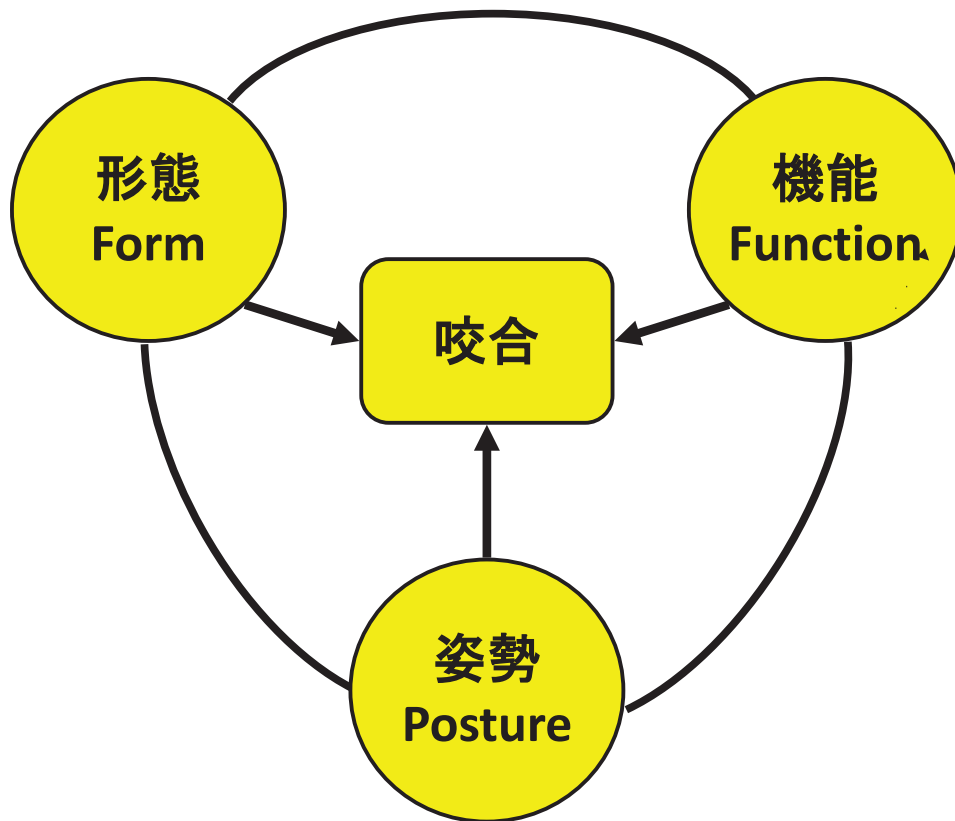
局所的問題

- ・咀嚼障害
- ・審美障害
- ・顎変形／顎関節症
- ・う蝕
- ・歯周病

全身的問題

- ・不定愁訴
- ・酸素不足
- ・ぜんそく／呼吸器疾患
- ・免疫病
- ・生活習慣病
- ・精神障害
- ・運動機能障害

形態と機能と姿勢



不正咬合の原因 ？

不正咬合の原因

* 後天性のもの

1. 機能 : 悪習癖

- ・口呼吸
- ・舌癖、舌小帯異常
- ・指しゃぶり
- ・片噛み
- ・物噛み／爪噛み
- ・食生活の乱れ

⇒ 予防矯正の対象

2. 姿勢 : 態癖

- ・うつ伏せ寝
- ・頬杖
- ・肘杖
- ・側湾／猫背
- ・ライフスタイルの変容
(体力不足、運動不足)

* 先天性のもの :

(先欠歯、奇形歯、口唇裂、顎裂、小顎症 etc)

1. 遺伝性
2. 先天性疾患

予防矯正の対象は？

後天的問題である！！

A) 機能的問題

- ・口呼吸
- ・舌癖、舌小帯異常
- ・指しゃぶり
- ・片噛み
- ・物噛み／爪噛み
- ・食生活の乱れ

etc

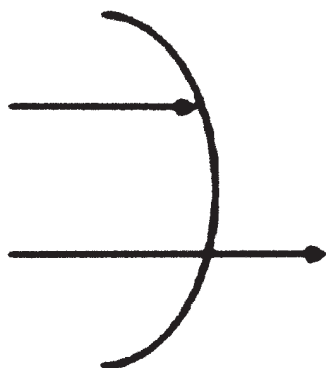
B) 姿勢的問題

- ・うつ伏せ寝、横向き寝
- ・頬杖、アゴ杖・肘杖
- ・側湾症／猫背
- ・ライフスタイルの変容

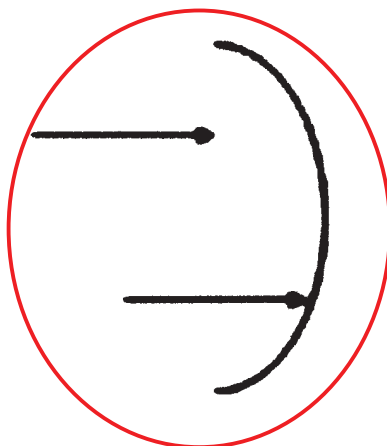
etc

反対咬合のタイプ

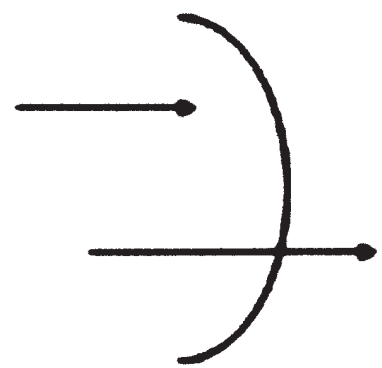
後天的要因



①



②



③

上顎: 正常 下顎: 前方位

上顎: 後方位 下顎: 正常

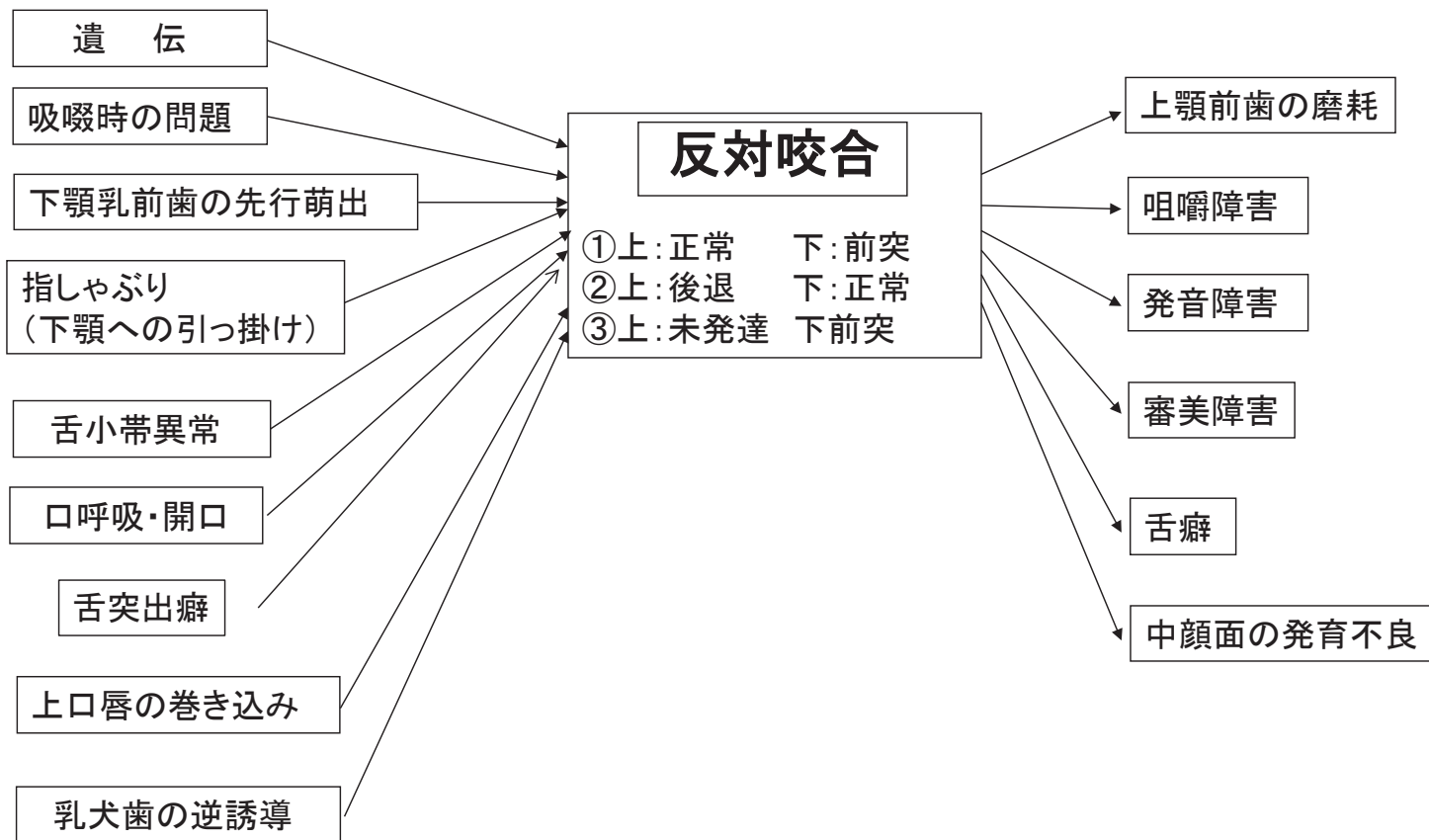
上顎: 後方位 下顎: 前方位

授乳の役割

- 嚥下運動のトレーニングを行なっている。
- スポットに舌尖を置くことの習得→舌の挙上
- 嚥下運動を行うことで、舌の筋肉を発達させ、また舌の正しい動きを覚えていく。
- 鼻呼吸の獲得
- 舌小帯が切れやすい。

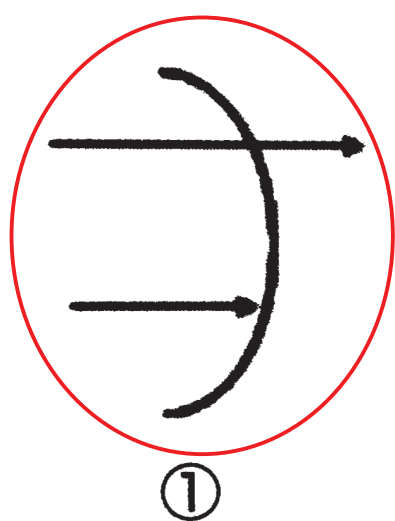
反対咬合の原因

- ①前歯が最初に萌出すること
- ②指しゃぶり
- ③舌小帯の異常
- ④習慣的な口呼吸または鼻閉による口呼吸
- ⑤上口唇を巻き込む癖
- ⑥乳犬歯の逆誘導

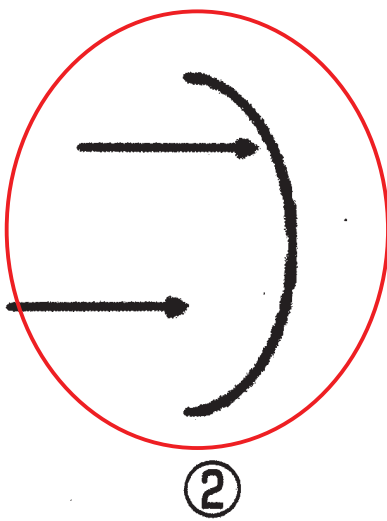


上顎前突のタイプ

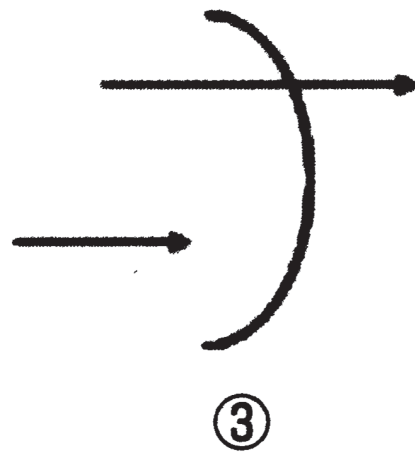
後天的要因



上顎:前方位 下顎:正常



上顎:正常 下顎:後方位



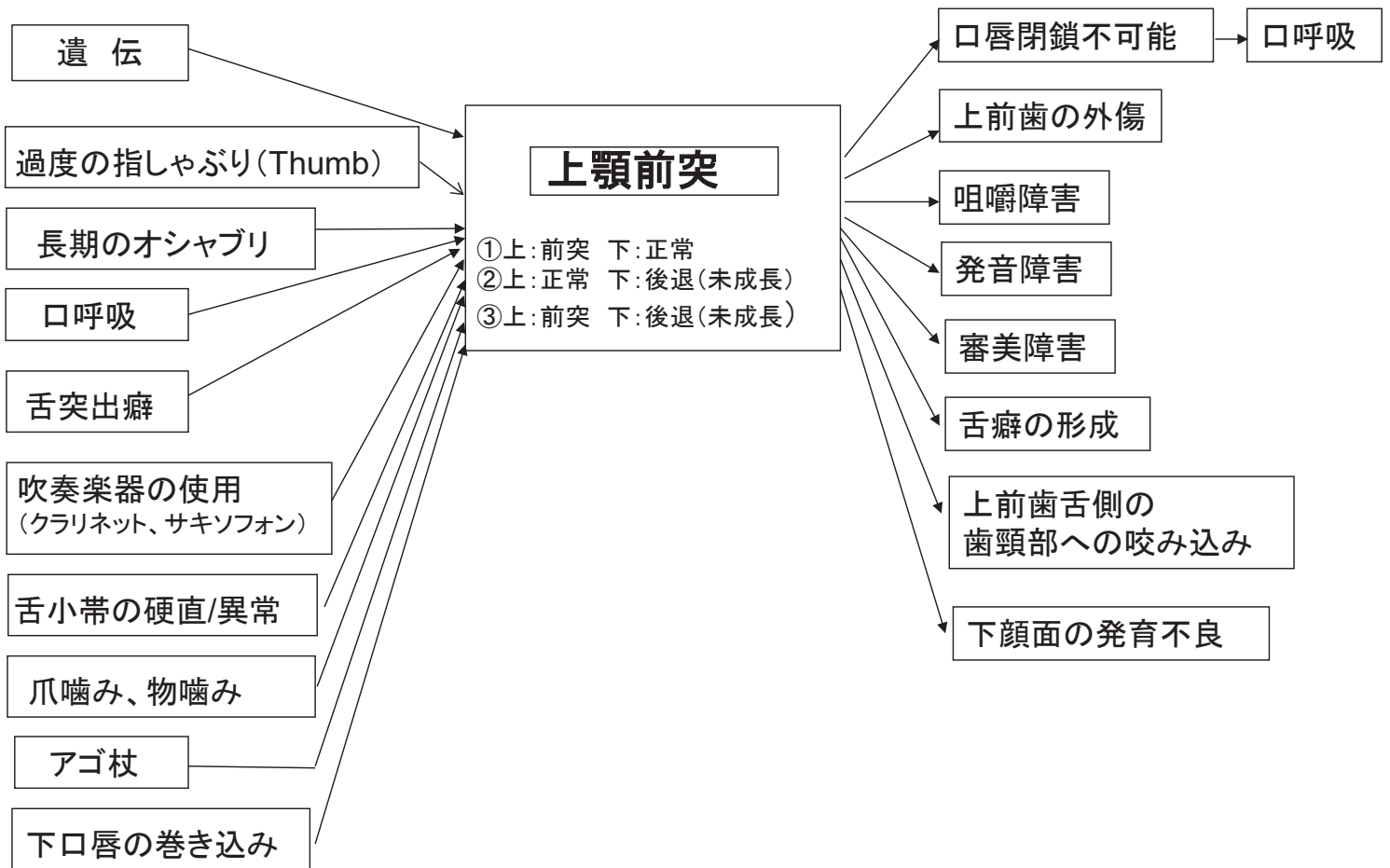
上顎:前方位 下顎:後方位

上顎が前方位、下顎は正常な場合の原因

- ①過度な指しゃぶり(Thumb sucking)
- ②長期のオシャブリ
- ③上口唇の緩んだ口呼吸
- ④鼻閉による口呼吸
- ⑤舌口唇を噛む

上顎は正常、下顎が後退(未発達)の場合の原因

- ①舌小帯の硬直
- ②前歯での爪噛み、物噛み
- ③態癖:本を読むときに下顎を手で支える
- ④下口唇を巻き込む
- ⑤口呼吸で舌が後退し落ち込む

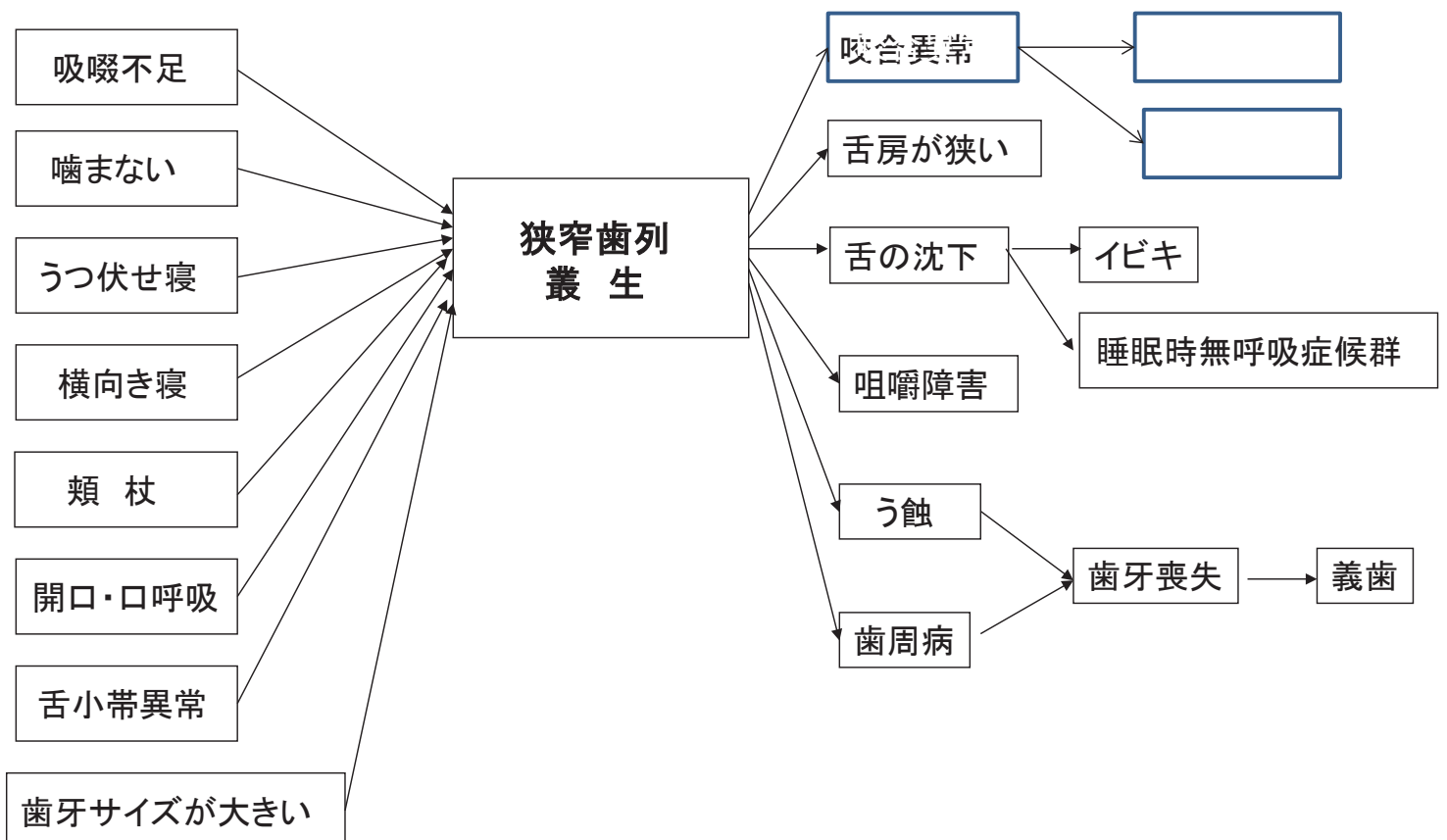


母乳育児のメリット

- 乳児を感染から守る(免疫物質が含まれる)
- 鼻呼吸の獲得
- スポットに舌尖を置くことの習得
- 舌筋、口輪筋の強化
- 母乳育児の期間: 12~15ヶ月

狭窄歯列・叢生の原因

- ①母乳の吸綴不足
- ②噛むことが不足：軟食、早食い
- ③うつ伏せ寝
- ④横向き寝
- ⑤頬杖
- ⑥開口
- ⑦舌小帯異常
- ⑧歯牙サイズが異常に大きい



過蓋咬合(下顎の劣成長)の原因

- ①吸啜不足
- ②咀嚼不足
- ③舌筋力不足
- ④舌小帯異常
- ⑤口呼吸
- ⑥乳臼歯部の歯冠崩壊や早期喪失
- ⑦悪習癖(咬唇癖など)
- ⑧態癖(アゴ杖など)



子どもの咬合を考える会が推奨する

「不正咬合を予防する子育て10ヶ条～新生児期・乳幼児期編～」

- 第1条 赤ちゃんの頭がのけぞらないよう、背中をゆるやかに丸く抱っこします
- 第2条 赤ちゃんを寝かせる時はうつ伏せ寝や横向けにしません
- 第3条 ハイハイを十分にさせます
- 第4条 大きな口を開けて深く乳房をとらえてお乳を飲ませます
- 第5条 赤ちゃんの唇、口の中も積極的に触れ、授乳後には口の中を清潔に保つようぬぐいます
- 第6条 離乳食は月齢ではなくお座りができるようになり、食事に興味を示すようになってから始めます
- 第7条 食事時の椅子は足の裏が接地するようにします
- 第8条 赤ちゃんが上下の唇で食べ物をとらえているか確かめます
- 第9条 手づかみ食で食べる意欲を育みます
- 第10条 食事中はお茶や水を控え、食べ物をよく噛み唾液で飲み込むようにします



子どもの咬合を考える会が推奨する

「不正咬合を予防する子育て 10 ヶ条・幼児学童期編」

(乳歯列が完成する 3 才頃から永久歯列に移行する 12 才頃まで)

- 第 1 条 口を閉じて鼻で呼吸します。
- 第 2 条 舌はいつも上顎につけます。
- 第 3 条 食事は口を閉じて一口ずつ、左右でバランスよく
 しっかり噛みます。
- 第 4 条 飲み込むときも口唇を閉じ、舌は上顎にそわせます。
- 第 5 条 頬杖、あご杖をするのはやめます。
- 第 6 条 指吸い、爪噛みはやめます。
- 第 7 条 口唇を噛む、巻き込むことはやめます。
- 第 8 条 背筋を伸ばして、姿勢をよくします。
- 第 9 条 寝る時は仰向け寝で寝ます。
- 第 10 条 舌や口唇や顔全体の筋肉のトレーニングをします。

なぜ噛めばアゴは大きくなるのか？

アゴを大きくする3つの要因

- ①自然な成長力
- ②矯正力
- ③機能的な刺激

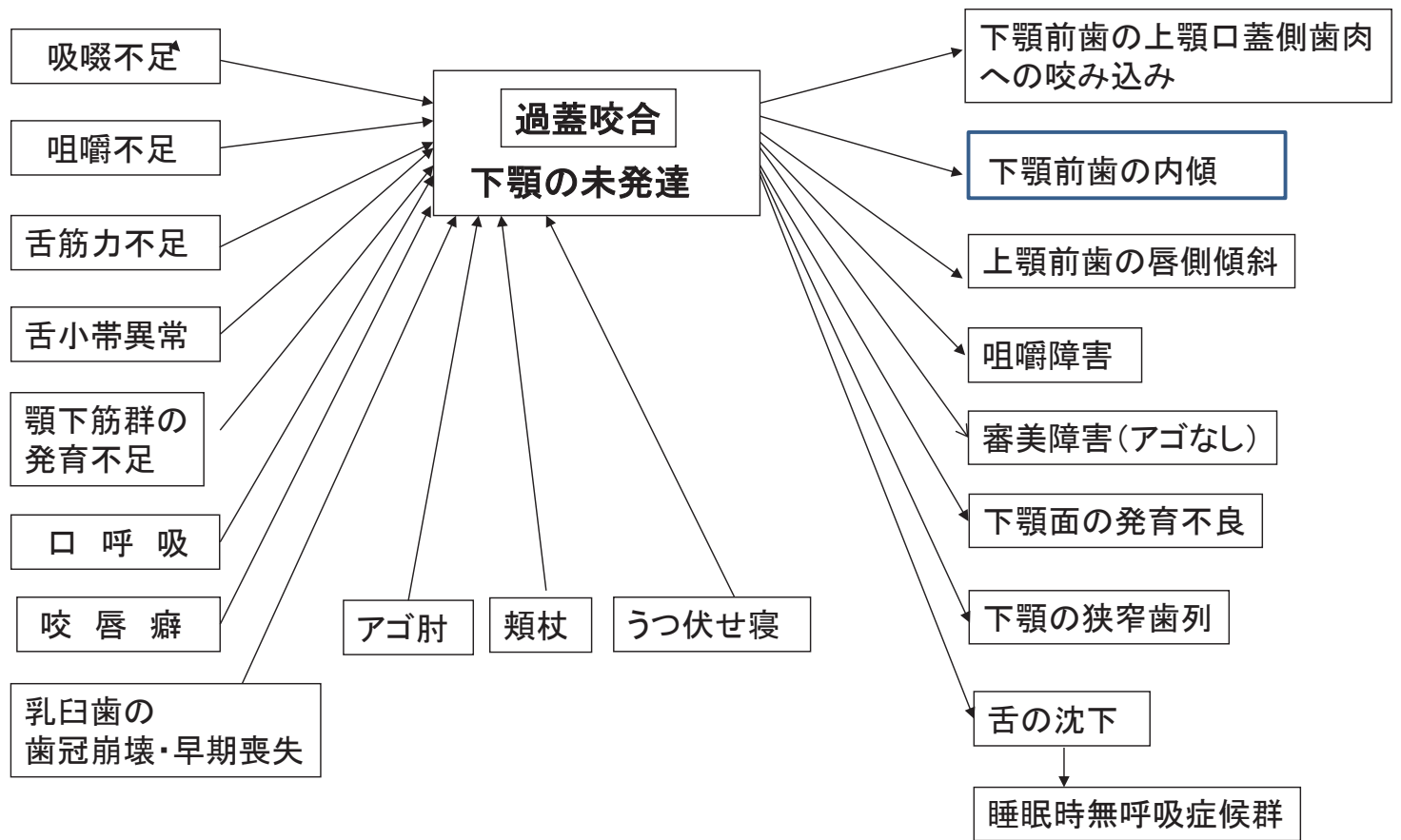
機能的な刺激

咀嚼や会話時に4つの力が働いている。

- ①咬合圧
- ②咀嚼筋力
- ③舌筋力
- ④口輪筋力

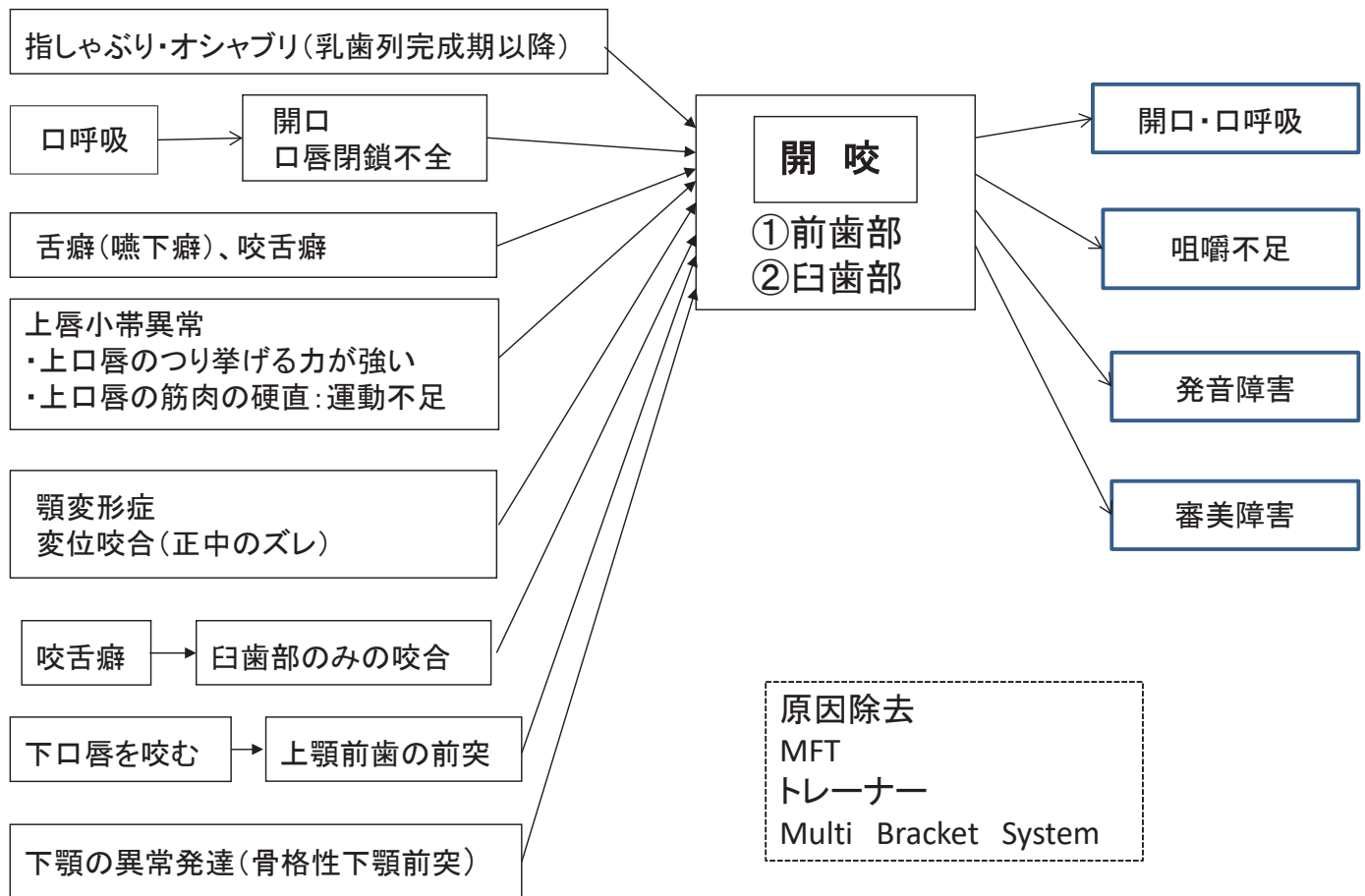
アゴを育てる秘訣

- ① カムカム・のむのむ運動の推奨（舌運動）
- ② Slow Food（⇔Fast Food）
- ③ 口唇閉鎖で咀嚼
- ④ “噛ミング30”の徹底
- ⑤ 生活習慣（悪習癖，態癖）の是正



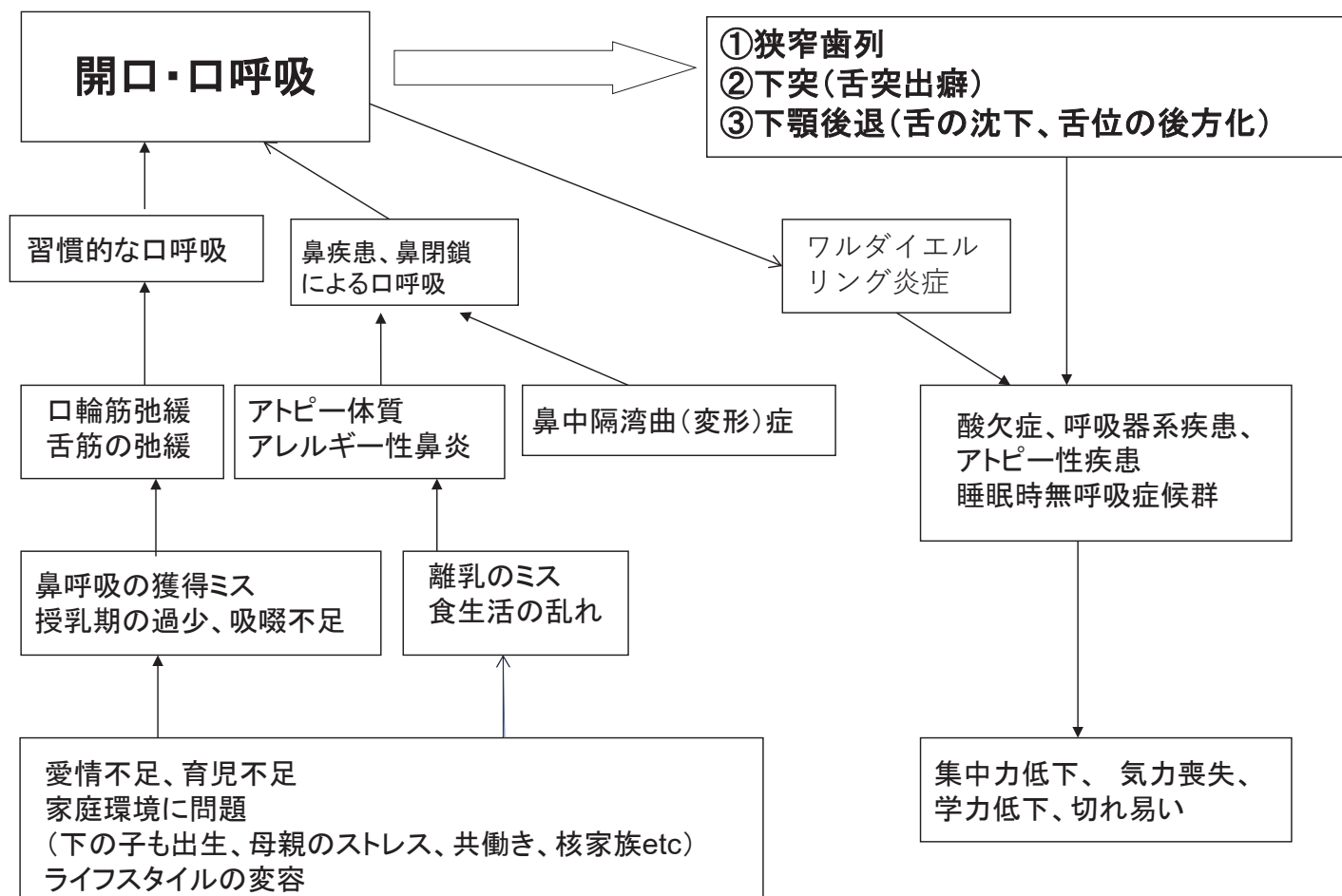
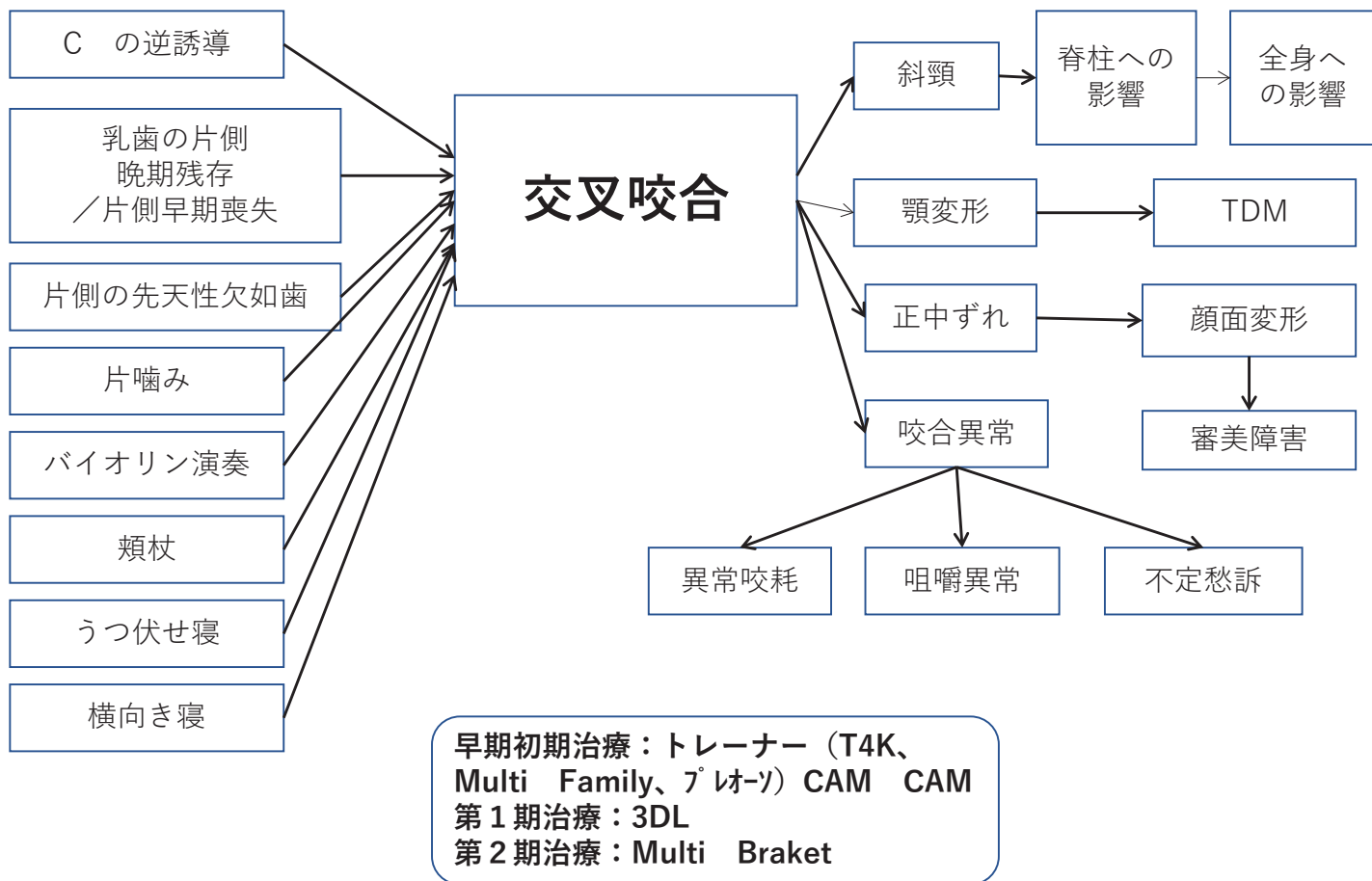
開咬の原因

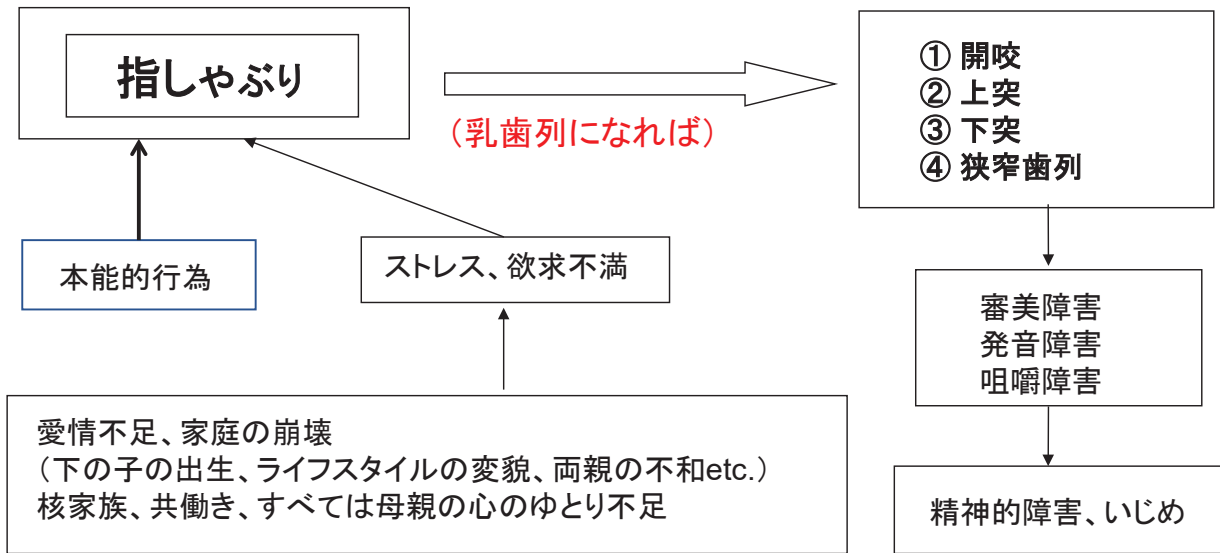
- ①指しゃぶり
- ②口呼吸
- ③口唇閉鎖不全
- ④舌癖(嚥下癖)



交叉咬合の原因

- ①片噛み
- ②Cの逆誘導
- ③乳歯の片側晩期残存/早期喪失
- ④片側の先天性欠如歯
- ⑤態癖 (頬杖、うつ伏せ寝など)

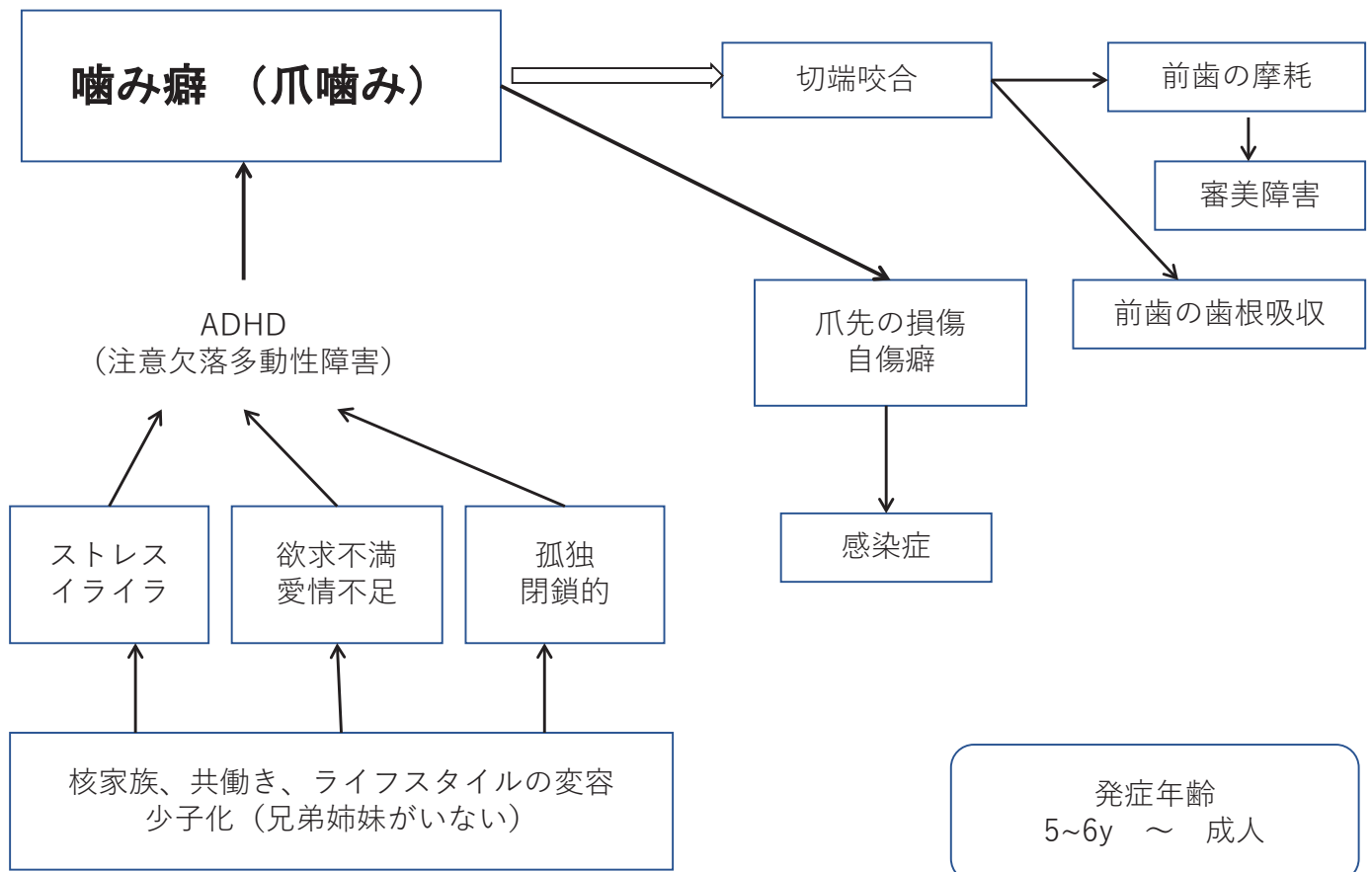


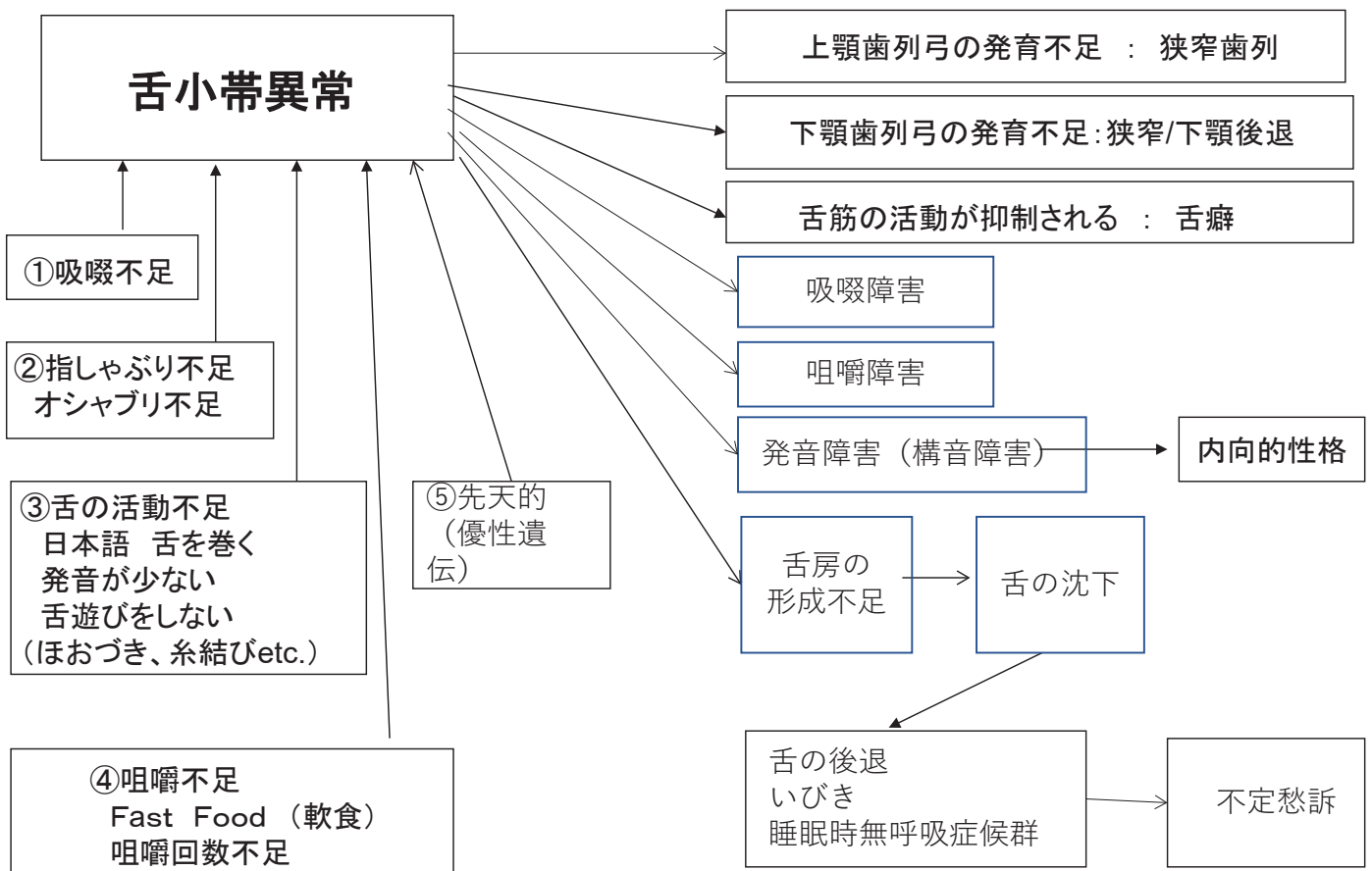
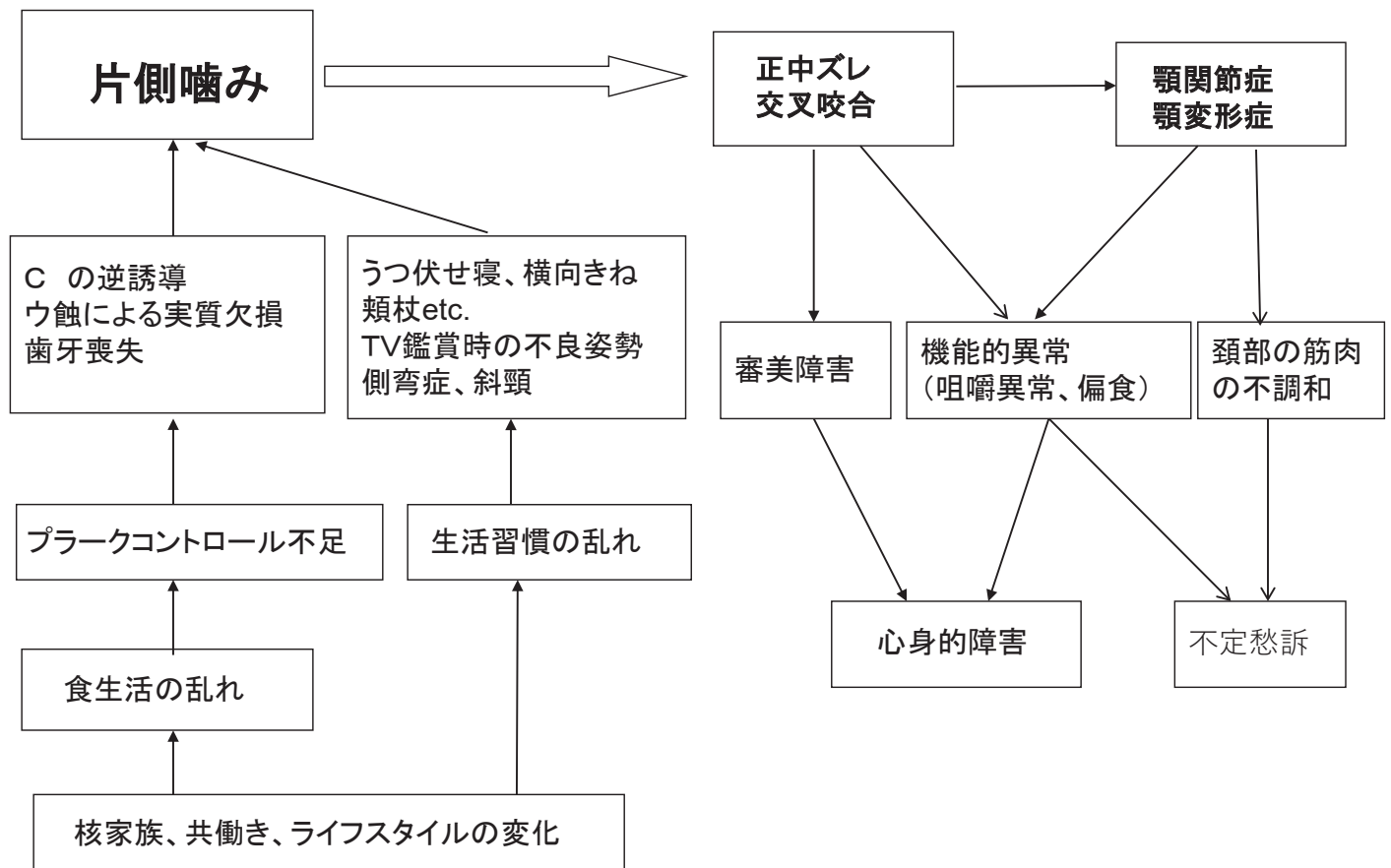


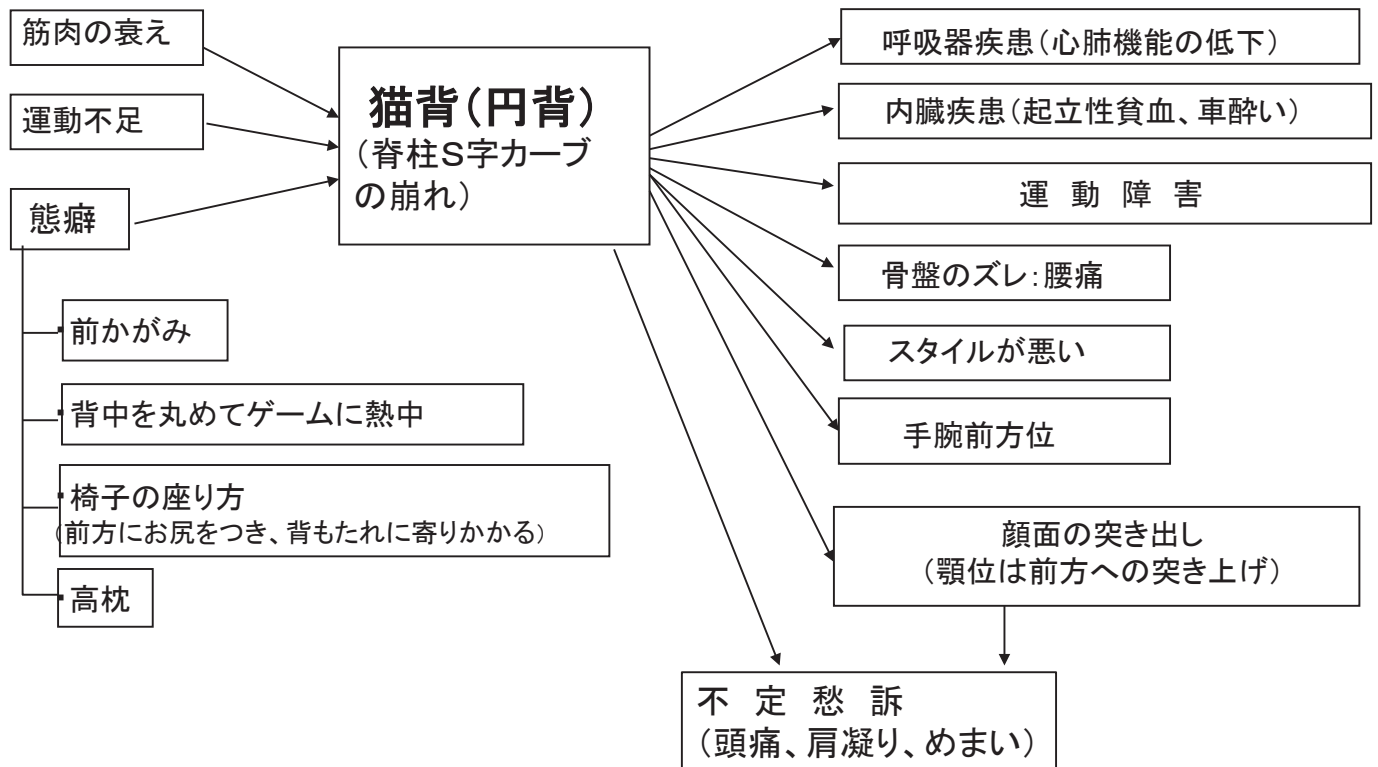
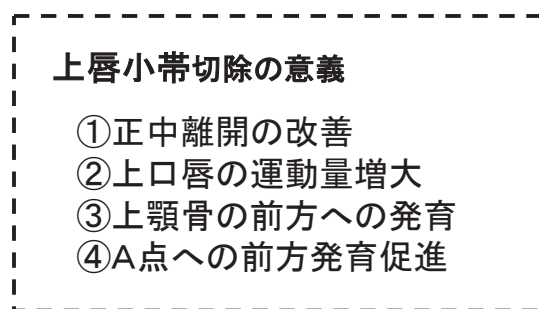
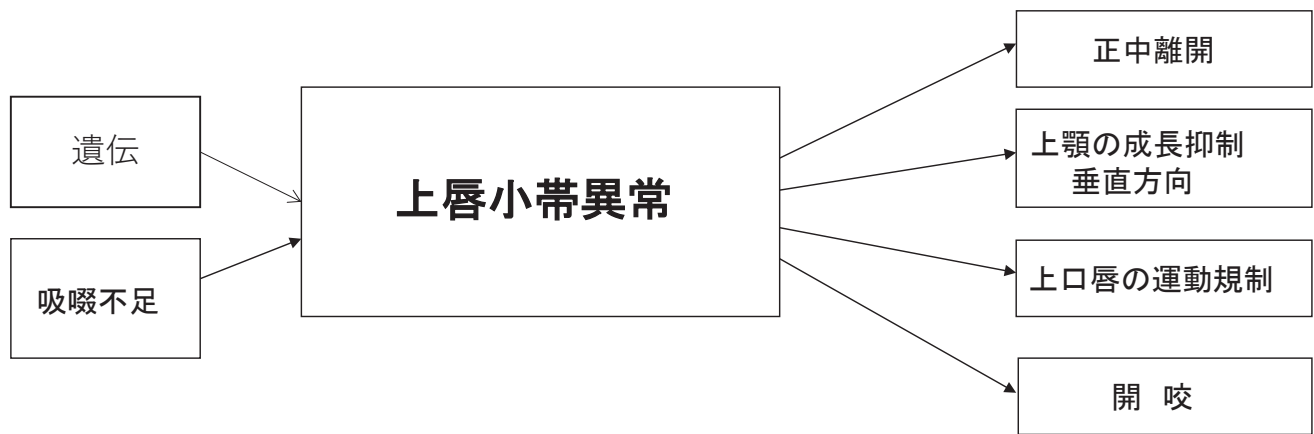
指しゃぶり には機能的に3つのメリットがある。

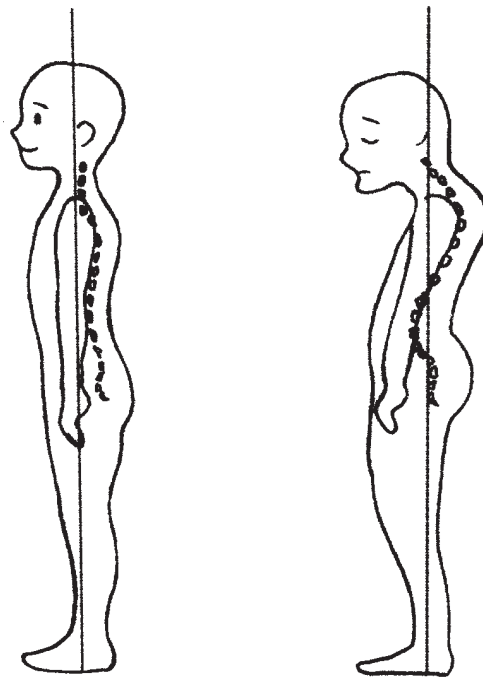
- ①鼻呼吸の獲得
- ②スポットの獲得
- ③舌筋の強化

乳歯列完成期までは大いにやらせて良い。

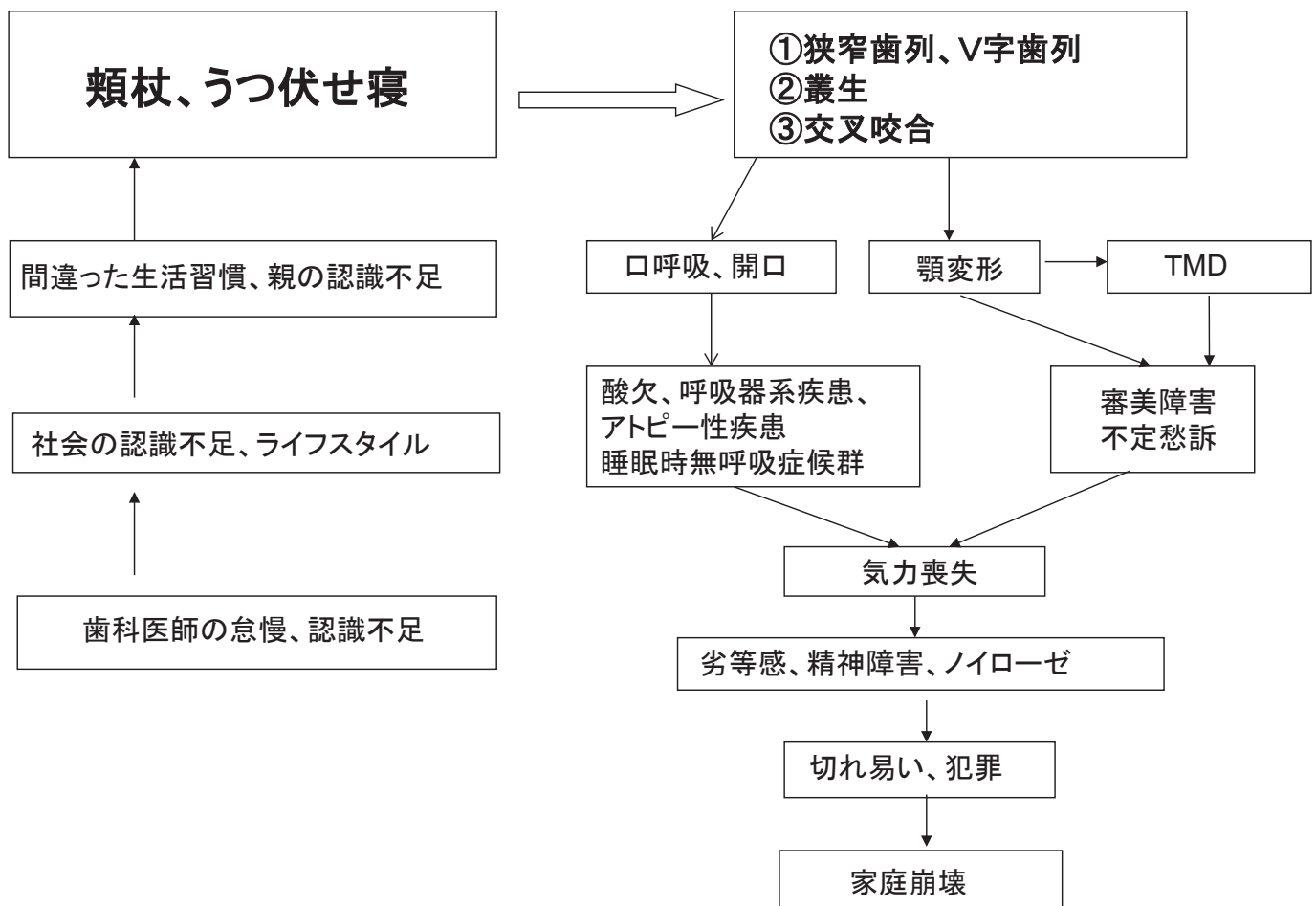


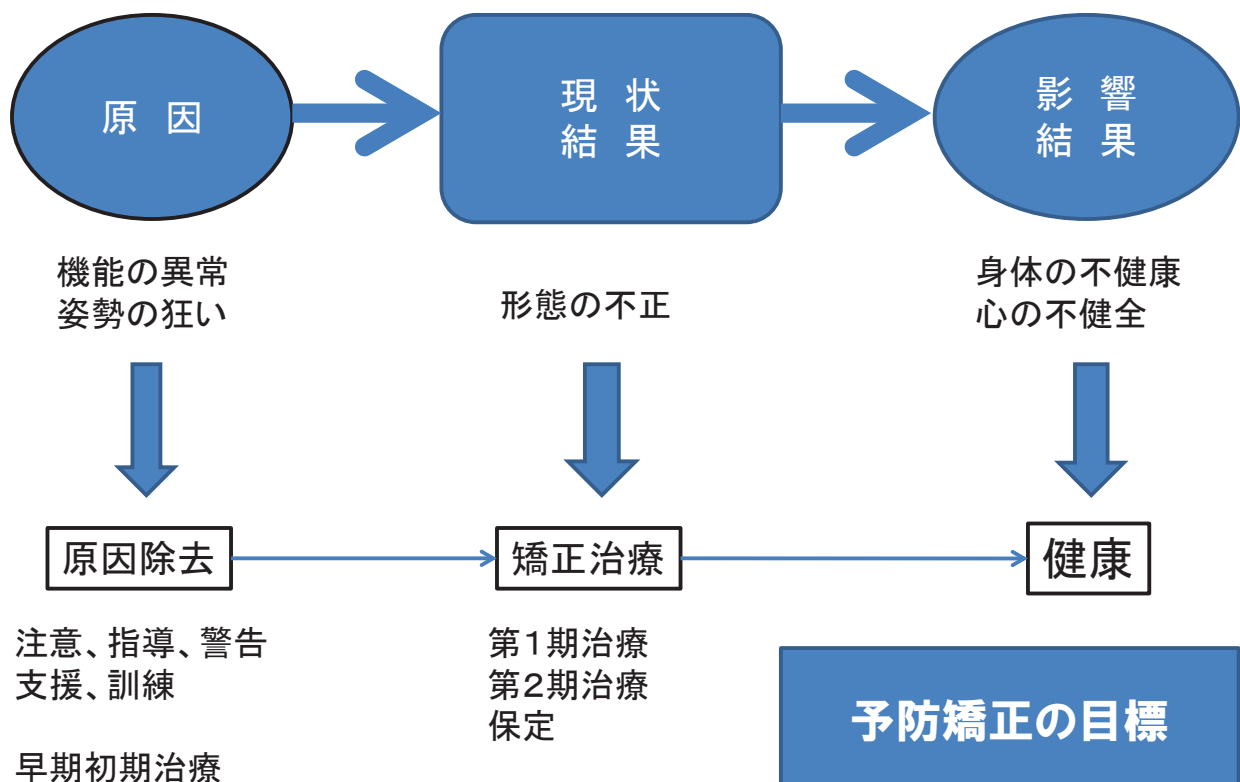
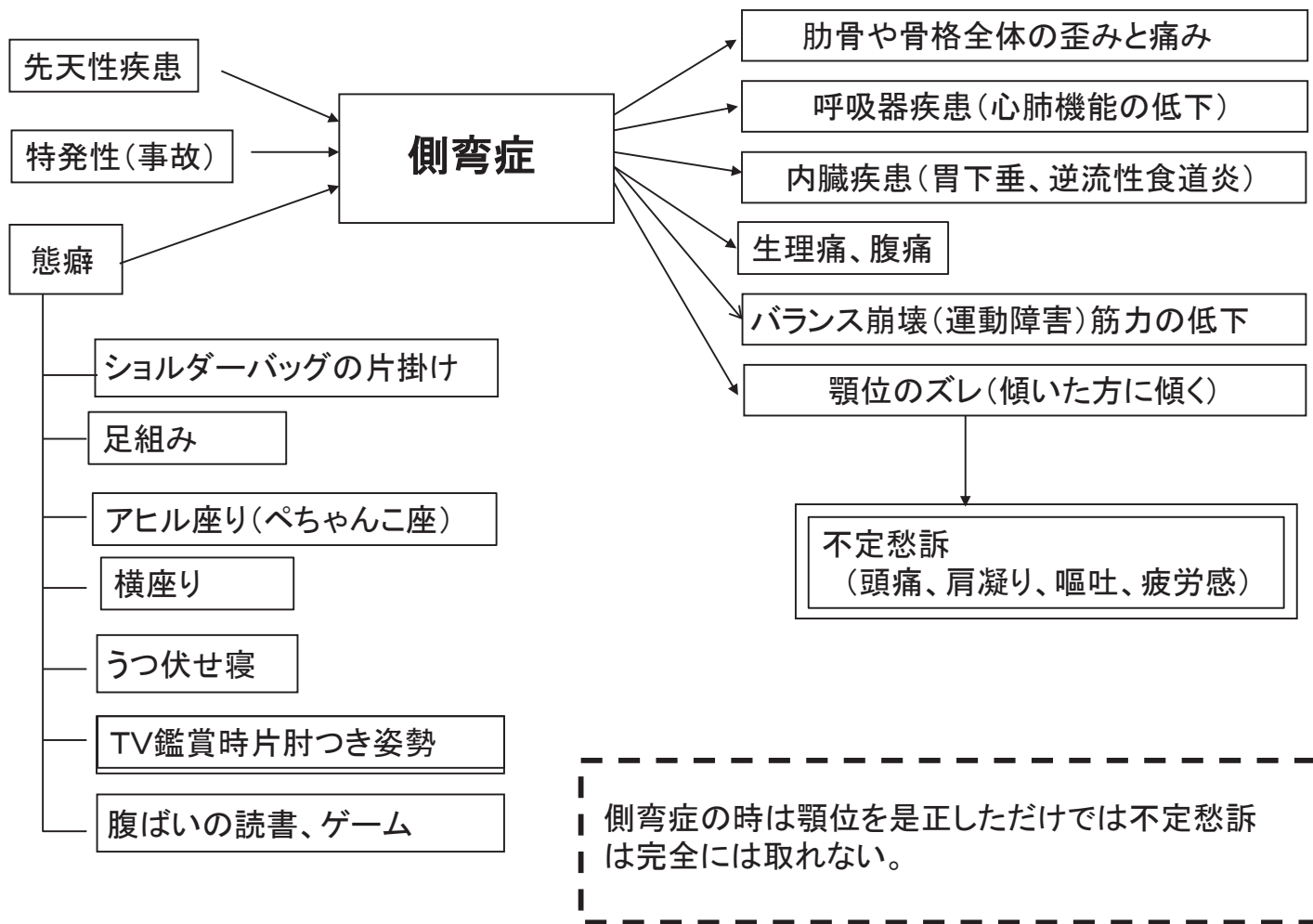






猫背になれば、下顎が前に突き出す





機能の異常が見えてくる目を！！

姿勢の異常に気づく目を！！

予防矯正の基本 ！！